

■ 成果指標

指標	単位	現状値		実績値				目標値
				R4	R5	R6	R7	
1	新たに指定した用途地域の地区数(累計)	地区	—	—	1	2		4
2	新たに指定した景観形成重点・推進地区の地区数(累計)	地区	—	—	0	0		2
3								
4								
5								
6								
7								
8								

■ 市民アンケート調査

項目		現状値 [R2]	1次 [R5]	2次 [R6]	市民アンケートの考察
1	亀山駅とその周辺が整備されている	重要度 0.90	0.98		調査項目全般において、概ね重要度及び満足度は上昇している。調査項目1については、満足度が大きくプラス方向に変化し、駅周辺整備により中心的市街地の活性化が図れたと推察される。また、調査項目2および3については、満足度が低く、魅力的なまちづくりの推進が求められていると推察される。
	満足度 ▲ 0.99	0.63			
2	魅力的な市街地が形成されている	重要度 0.90	1.01		
	満足度 ▲ 1.03	▲ 0.60			
3	美しいまちなみや景観がつけられている	重要度 0.93	1.01		
	満足度 ▲ 0.36	▲ 0.18			
4	公園・広場・緑地が充実している	重要度 0.99	1.15		
	満足度 0.19	0.21			

■ 施策推進 [施策の方向]

施策の方向	施策推進に関する考察
① 計画的な土地利用の推進	関ヶ丘団地の用途地域指定を行うなど、適正な都市形成を推進した。今後も都市マスタープランに則した土地利用を推進する。
② 活力ある市街地の形成	駅前駐車場工事が完成するとともに、住宅取得支援や地籍調査を推進する等、市街地の活性化を図った。今後も市街地への都市機能誘導等を推進する。
③ 安らぎのある都市の形成	亀山公園大型複合遊具等の更新による公園機能の充実や景観計画改訂に向けた地域懇談会を行った。今後も東野公園などの複合遊具の更新や景観計画の改訂を進める。
④	
⑤	
⑥	
⑦	

総合評価

計画的な土地利用の推進については、都市マスタープラン及び立地適正化計画の見直しに必要となる防災リスク基礎調査を実施し、災害リスクが高い地域の抽出・課題整理および取り組み方針案をとりまとめ、今後の都市マスタープラン及び立地適正化計画策定につなげることができた。また、関ヶ丘団地の用途地域指定により、ゆとりある住環境の保全・維持につながり適切な都市形成を推進することができた。次に活力ある市街地の形成については、亀山駅周辺の駐車場整備が完成し、関係機関との事前調整により供用開始が次年度となったものの、駅利用者の利便性の向上につなげることができた。また、居住誘導区域内への居住促進のための住宅取得支援については、21件の支援を実施(うち13件が子育て世帯)し、既成市街地の活性化、子育て世帯の定住促進が図れた。さらに地籍調査については、DID地区の狭あい道路がある地区を優先的に取り組むことにより、土地の有効利用の推進や災害復旧の迅速化につながったが、全国と比べ進捗が下まわっていることから、引き続き進捗の強化を図る必要がある。安らぎのある都市の形成については、亀山公園大型複合遊具等の更新において、インクルーシブ対応遊具や老朽化している遊具の一体的な整備が完了し、公園利用者の安全対策を図ることができた。また、景観計画改訂に向け、景観重点地区の指定を進めるため、アンケート調査や地域懇談会の実施による地域住民への意見聴取を行った。今後は聴取した意見および地区の現状を分析し、景観重点地区指定の推進方法について検討を行う必要がある。

B

まずまず進んだ

今後の展開方針

計画的な土地利用推進については、コンパクトで安全なまちづくりを推進するため、エリアプラン策定に向け、各地区の状況に応じた策定方法の検討を進めていく。また、亀山駅周辺地区においては、新庁舎の建設位置を含め、関係部署との連携・調整を図り進捗に努める。活力ある市街地の形成については、人口減少や高齢化等により、既成市街地の空洞化は進んでいる状況の中で、住宅取得支援事業等の周知を図るとともに、移住促進等の他分野との連携強化を図っていく。また、地籍調査については調査の効率化を図るため、狭あい道路整備事業等と連携しながらDID地区および市街地の居住誘導区域を優先的実施区域とし計画的に推進する。安らぎのある都市の形成については、景観計画の改訂に向け、地域の意見等を踏まえた推進方法の検討を進めていく。また都市公園や小規模公園等の施設増加に対応するため、多様な主体と連携した維持管理の推進に努める。